

東アジアの平和と多元的な宗教・ NGO・市民社会の役割

山本俊正

本研究プロジェクトでは、昨年、一昨年に引き続き、今年で3年目を迎えた。研究テーマは、東アジアにおける平和実現のための国家間の対話と協力をその視座に置くと同時に、国家以外の主体、すなわち自治体や、市民社会、NGO、キリスト教会、宗教者等による協力及び信頼醸成の働きに注目し、その可能性を探ることにある。初年度は学内外の研究者による発表を行い、研究テーマの理解を深めた。昨年度はワークショップ形式の研究会を、学生団体、留学生と協力して3回行った。本年度は在外の研究者及び本プロジェクト研究員による個別研究発表を中心に4回の研究会を開催した。以下は各研究会の概要報告である。

■第1回研究会は、6月26日（金）に、黄 尚翼（ソウル大学医科大学教授）を講師に招き、研究会を開催した。テーマは「東アジアの平和—朝鮮半島の保健医療の視点から」であった。黄氏は臨床医師であると同時に、日本統治下における朝鮮半島の医療、健康の状況に関する研究者であり、豊富な資料、データを基に研究発表が行われた。

■第2回研究会は、7月6日に、ジェフリー・メンセンディーク研究員（神学部准教授・宗教センター宗教主事）が「東アジアにおける歴史的トラウマの問題」をテーマに発表を行った。米国、イースタン・メノナイト大学で研究されている、世界各地でのトラウマを経験した人々への取り組みが紹介され、東アジアにおける暴力の連鎖を断ち切る取り組みの必要性が指摘された。

■第3回研究会は、10月2日（金）に、山本俊正センター長（商学部教授、宗教主事）が「東アジアの平和と憲法9条・キリスト教非暴力思想の可能性」を主題に研究発表を行った。東アジアの平和構築プロセスにおける、日本の平和憲法の意義、特に9条の持つ可能性が強調された。また、キリスト教の非暴力主義の伝統、歴史的な変遷、現在の取り組みなどに言及がなされた。

■第4回研究会は、11月25日（水）に、水戸考道研究員（法学部教授）が研究発表を行った。主題は「日本の軍事力、平和力、市民力と東アジアにおける平和構築:靖国参拝と憲法九条改正を中心に」であった。多様化する現代の国際情勢、国際政治の現実に基づき、日本の軍事力、平和力、市民力の分析が紹介された。また、東アジアの平和構築に関連して、靖国参拝と憲法九条を事例として、具体的な提案がなされた。

なお、本プロジェクトの研究主題に合わせて、RCC主催講演会が、11月17日（火）に、関学会館光の間を会場にして開催された。講師は李鍾元氏（早稲田大学大学院教授）で、主題は「東アジアの平和—『安保法制』以降の日・中・韓関係の課題と展望」であった。

本プロジェクトは今年が最終年度となるため、その成果をまとめ、出版という形で公表し、学内外での研究者、学生、一般の方々と成果を共有したいと願っている。これまでの学内外者による研究発表、講演録、紀要発表論文を整理し、編集したものを、2016年度内に関西学院大学出版会より公刊することを予定している。